

芽を摘み取りました。私は其時直に注意を興へ様かと思ひましたけれども、幼兒は決して惡意で積んだのではありません只遊びの爲めに積んだのであると思ひましたので暫く自由に遊ばせて置きまして、その興味の半ば過ぎた頃に其子供に申しました「彼の菊を若し摘み取らなかつたら、だんだん大きくなつて美しい花が咲く様になりますのに、惜しいことをしました、けれどもこれからは氣をつけませう」と申しました。すると其子供はよく私のいふたことを了解してうなづいてゐました。

私共は毎日保育をいたします上に子供の興味を尊重してやり同情を以て観てやるこの二つの道が大切なことゝ存じます。

今日はフレーベル先生の御祭りにあたりまして私たち江戸堀研究会々員の未熟な者達が澤山出まして、長々と貴重な時間を御静聽下さいました事を一同に代りまして厚く御禮を申し上げます。

思ふよま、

一 會 員

□

眞夏まなつになつた。山を見ても野を見ても、さては藁わらに照りつける白日の光を見ても、誠まことに生々とした、力の充ちくゝてゐる心地がする。

前の休暇からこのかた幼稚園の先生としてのたえまない活動をつづけて來た私達が、日頃の目まぐるしい生活から暫く離れて、こゝにたとひ一月でも半月でも休暇をもつと云ふ事は何と嬉しい事だろう、政治家にせよ、實業家にせよ、社會の表面おもてに立つて活動する人達を見ると、あの火花をちらす様な花々しい生活、その緊張を本當にうらやましいと思ふが、しかしその活動の一方にはまたそ

の勢力をたくはえるための充分な休みがある。深更まで密議を疑らす國務大臣も、一日中を取引のかけ合ひに奔走する商人も、連日つづけはせぬ。いざと云へば三日も四日も不眠不食で奔走もしやうが、また閑日月ののびくとした時が、日が、一月の中に一週の中に、又は一日の中にも得られる事と思ふ。

學校の生先はどうであらうか、一週に一度日曜日はある、しかし繰り返す毎日の生活は、目覺ましいとも云へまい、むしろ極めてじみな生活であつて、目立たないだけに、また、單調になりやすい、舊りやすい、若葉の萌え出る様な新鮮味を失ひやすい。ことに毎日毎月毎年の繰り返す生活、それに馴れると云ふ事の恐しさは、どうかすると情性でくらしで行きやすい事である。「人の精神を取扱ふ大切な教育事業を情性でするなどは」と驚く人があるかもしれない。しかし實際、經驗を積むために生ずる仕事の容易さの他面には、舊り

やすい、器械的になりやすい傾向があると云ふ事を忘れてはならない。

ことに幼稚園の教育は、考えれば考える程問題も起り、努力すればする程、なすべき仕事次から次へといくらでも湧出して來ると同時にこの教育ほど習慣的に情性的にしても、それで濟ませて行けるものは少ないと思ふ。どの教育でもそうであるがことにもいろいろの方面に先生自身の自由な活動の範圍の廣いだけ、大きいだけ、幼稚園の教育は先生その人次第であり、その先生に新鮮味があるかないかで仕事の上で大變な差が出來て來るのである。

□

人に與へるためには先づ自ら持たなければならぬ。空虚な水甕（つがひ）からは如何にしても一滴の水さへ出す事は出來ない。湛（た）へられた水桶（みづか）も汲み出さ

ねば水は腐つてしまふと云ふが、しかし先づ充たす事をしなければ、汲み出すにも出されない。幼児は先生に對していつも新しい清い水を要求する。私達の泉は腐れかゝつては居らないだらうか。私達は先づ水を汲み入れなければならぬ。

休み!! 休み!! 今私達に一番必要なものはこの休みである。幸に得られたこの休暇を、どうか充分に心身ともに休養させたい。そして秋の活動に否、私達にとつて少くとも來る一年間のたえまな活動にそなへる力をたくはへなければならぬ。

幼稚園の先生は本當に疲れる。一度も經驗のない人達には、とても想像もつかない様に疲れる。

「一日子供と一所に遊んでさぞ面白いでせう。呑氣ですわね」と云ふ様な言葉を受けた時に「とても理解しては呉れない」と云ふ一種のあきらめの心持で私達はだまつてしまふ。外から見たら呑氣かもしれない。一日子供と一所に馳けたり飛んだりまゝごとしたるくぢらなくも氣樂にも見えやう。

しかし先生にとつては、寸分のすきもない緊張の生活、それで小供が幼稚園の門に入るから送り出す迄ゆるむ事の出来ない生活である。身體の疲勞は勿論人間をそのまゝ、我が心の中にうけ入れて、人格對人格の生活をつづけるその精神の疲勞はどれ位だかわからない。

疲れてしまつては教育は出来ない。無限に要求する子供に何も與へる事は出来ない。

休み!! 休み!! 幼稚園の先生は、本當にこの休暇を充分に休まねばならぬ。

□

休めと云はれ、休むと云つて見ても、どうすれば休めるかは人によつて種々であらう。休むのであるとて何もせずたい眠つてゐても休みにはなるまい。よく人も云ふ事であるが學課にしても同じ事を何時間も續けるよりも、違つた學課をいろ

く取り合せる方が遙かに疲労が少ない様に、私達も休むと云ふ事のためには一日の暮、しかたに變化を興へると云ふ事も一方法であらうと思ふ。幼稚園に出て居れば、どうしても時間で生活して行くために、又たえず子供との接觸交渉のために、思ひきり自分の好きな事に没頭すると云ふ事は出来にくい。しかし休暇中には、日頃讀たいと思ふ本に一日でも二日でも興味を集注する事も出来やう。又家庭内の仕事に思ひのまゝ、浸たる事も出来やう。或は旅行好きの人は、自分の興味にしたがつて、山に海に名勝をさぐる事も出来やう。

大切な事は、思ひ切つて自分にかへつた生き方をすると云ふ事である。自分のために眞實に生きる事の出来ない人は、他人のために、幼児のために、眞實につくす事は出来ない。

「人が毎日の生活に疲れると云ふのは借りもの様にしてその仕事をするからである」と或は云ふかもしれない、しかし如何に幼児教育に興味を

もち幼稚園の先生としての生活が自己の生活それ自身であるとの確信を得て居る人にしても、三百六十五日の、この心身ともに勞する事多き仕事には、時に疲れる事あるのは止むを得ない事である。私達は休まなければいけない。私達は疲れを癒さなければいけない。

どうかこの夏季休暇を皆が充分に休養する様にしたい。

九月には、皆の水甕から新鮮な水が湧きあふれてゐる様に。

子供の遊び相手になるには

きただて  
氣立のよいのが第一。(ハッセル…自叙傳)